

東住吉区地域福祉サポート事業にかかる事業評価結果

(1) 事業の実施状況の評価

評価	左記の理由
3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民等と相互コミュニケーションを図りながら事業を進めることができている。 ・事業における基本的な事項は実施できている。

(2) 事業の実施体制の評価

評価	左記の理由
3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・人員、ローテーション、業務内容の制限がありながらも精力的に活動できている。 ・基本的な体制は整備できている。 ・事業を広く実施していくための基盤を工夫されたい。

(3) 目標の達成状況

評価	左記の理由
3.6	<p>≪「東住吉区地域福祉サポートセンター」の運営について≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポーター育成・支援の研修内容は参加者や地域の声を取り入れ工夫されている。 ・広報における配布物や配布方法等のバリエーション、また、アンケートのアプローチ方法などには検討・工夫・改善の余地がある。 ・サポーターの認知度を上げるための広報手段の検討や広報戦略を意識してほしい。 <p>≪「地域相談窓口」の運営について≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャッチできたケースの関係機関等への「つなぎ」はできており、高齢の方の対応は積み重ねられている。社協のネットワークや総合力を活かすことで高齢以外の方のニーズのキャッチも高まると思われる。 ・相談実績等の集計について、件数が少ない地域もあり、集計方法の検討が必要。 ・積極的なアウトリーチはできているがアプローチ方法について検討・工夫・改善の余地がある。 <p>≪「見守り相談室との連携」について≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関等との連携もできており、顔の見える関係を今後も大切にしてほしい。 ・ゆるやかなネットワーク、見守り活動は継続性が大切であり、今後も期待している。 ・地域の要援護者の見守り相談室へのつなぎも一定できている。 <p>≪「生活支援コーディネーターとの連携」について≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情などをくみ上げ作成した「生活のしおり」は高く評価できる。 ・コーディネーターとの連携方法など検討・改善の余地があり今後期待したい。 ・生活支援コーディネーターは、柔軟に動くことができる専門職であり、これからも地域と地域資源をつなぎながら連携してほしい。 <p>≪「区・区社協との連携」について≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災の取組は非常に重要である。親子で参加しやすいイベント形式にしてはどうか。 ・スマホ教室は地域のニーズに応えられている。 ・連携内容やアプローチの方法など検討・工夫・改善の余地があり今後期待したい。 ・各種取組は、参加者や関係先をより広める機会としてもっと活用してほしい。

※評価指標については別紙を参照

(4) 各委員の評価

①事業の実施状況の評価

評価点	X 委員	Y 委員	Z 委員
	3.5	3.0	4.0

②事業の実施体制の評価

評価点	X 委員	Y 委員	Z 委員
	3.0	3.5	4.0

③目標の達成状況

評価点	X 委員	Y 委員	Z 委員
	3.3	3.4	4.0

(5) 主な意見等

- ・東住吉区地域福祉サポートセンターが地域福祉サポーターを育成・支援するにあたり、その研修等の内容は地域福祉サポーターや地域の意見を取り入れるなど、サポーターに寄り添いコミュニケーションを図りながら工夫し、取り組まれている。
- ・広報に関しては認知度を上げるための戦略を意識することや配布物のバリエーション・デザインに工夫がほしい。
- ・アンケートの実施に関して、対象者が偏らない工夫や集計方法など検討・工夫・改善の余地がある。
- ・地域相談窓口の運営において、高齢の方の相談対応は積極的なアウトリーチや関係機関への「つながぎ」などもできている。社会福祉協議会のネットワークを活用することで高齢以外の方の相談対応が広がると思われる。
- ・見守り相談室や関係機関等との連携・つながぎもできている。顔の見える関係や「ゆるやかなネットワーク」「見守り活動」は継続性が大切である。
- ・生活支援コーディネーターと連携し地域の状況を反映し作成された「生活のしおり」は評価できる。これからも、地域と地域資源をつなぎながら生活支援コーディネーターと連携してほしい。
- ・区や区社協との連携について、「スマホ講座」は地域のニーズに対応できている。今後の各種取組の実施にあたっては実施内容やアプローチ方法、参加者や関係の拡大など、さらなる検討・工夫・改善を期待したい。